

魚問屋奥田家文書概要

- 1: 文書群番号 083001
- 2: 文書群名 魚問屋奥田家文書
- 3: 出所 奥田吉康家
- 4: 家業・役職等 魚問屋
- 5: 地名 摂津国川辺郡尼崎中在家町／兵庫県川辺郡尼崎町ノ内尼崎町／尼崎市
中在家町／尼崎市中在家町ほか
- 6: 行政区分 尼崎藩領／兵庫県第9区／尼崎町戸長役場／尼ヶ崎町／尼崎市
- 7: 歴史
奥田家は屋号を直場(ねば)屋といい、代々当主は吉右衛門を襲名した。
直場屋の創業は正徳～享保年間(1711～1735)と言われている。当初は魚問屋の下働きの存在である出買人のうちに「直場角屋吉右衛門」として名を連ねていたが、その後成長を遂げ、魚問屋を商うようになった。
近代以降尼崎魚市場が衰微していくなかでも「奥田吉右衛門商店」として引き続き魚問屋商を継続したが、昭和初期ごろ廃業したようである。
なお『尼崎市現勢史』によると、大正5年(1916)当時、奥田家当主吉右衛門は第1次市会議員選挙で第2級当選を果たしていたほか、尼崎共立銀行の監査役であった。
- 8: 伝来 昭和58年、史料館が古書籍商より購入。奥田吉康氏文書126点と本来一体。
- 9: 史料入手先 古書籍商
- 10: 点数 375点(目録件数36件)
- 11: 年代 寛政10年(1798)～大正3年(1914)
- 12: 構造と内容 本文書群は主として18世紀後半～大正初年にいたる奥田家(直場屋)の魚問屋経営関係史料からなる。経営帳簿類が中心であり、その大半は明治33年(1900)～大正3年(1914)に作成された「諸魚水揚日々記入帳」である。
他に近代を中心に、金子借用証文など金融関係史料もある。
- 13: 関連史料 奥田吉康氏文書など
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 河野未央